

Y's Men International

YMI

WORLD



“To acknowledge the duty that accompanies every right”

Only for private distribution to members

YMI ワールド
2020-2021 No.1
日本語版



国際書記長から：バーチャルに結ばれている世界での会員増強を考えよう・グローバルクラブ結成の事例／国際協会ニュース：ジェイコブ・クリステンセン国際会長就任・IBC一覧編集者がバランタイン賞を受賞・新しい国際プロジェクトが採用されました。／エクステンションについて：エクステンション - 他の人たちの知恵の上に築き上げる／会員について：会員の皆さんー精力的に行動し、真剣に取り組みましょう。／第一人者：アフリカワイズとの私の旅／ワイズメネット：プロジェクトコーディネーターのジョイ・マクナマラからの書簡／マイクロヒストリー：名誉ある賞を通じて記憶する・彦根／ハイデラバードワイズメンズクラブのIBC関係・栄光の55年（1965年～2020年）／地域からのニュース：「隠された宝石」- あなたの物語は何ですか？・ラテンアメリカ、オーストラリア、日本、米国、ヨーロッパ、インド、タイ、カナダ、ガーナからの報告

編集長のページ

読者の皆さまへ



今年もまた、歴史の旅の中で98回目の年が始まりましたが、今回は、パンデミックの影響で不確実性の暗い影が私たちを覆っています。しかし、これは、今号と前2号のYMIワールドの多くの記事が示すように、困っている人や必要としている人に奉仕するという私たちの基本的な義務を遂行することを妨げるものではありませんでした。

私たちはまた、コミュニケーションを強化し、テクノロジーを活用することで、親睦を深めることができます。実際、この半年間、国際会長の就任式や国際レベルでの国際議会からクラブの月例会まで、様々なレベルの会合のほとんどすべてがリモート会議で実施されてきました。

今号のYMIワールドは、次のような有益な記事を掲載しています。国際書記長のジョース・ヴァルギースは、グローバルクラブの結成を検討するためにテクノロジーが提供する機会について書いており、それによって運動における会員増強の概念を再考しています。続いて、様々な大陸からのシニアメンバーによる3つの意見が掲載されています。元国際会長のジョアン・ウィルソンは、マニュアル検討委員会のメンバーであり、EMC マニュアルの改訂版を紹介しながら、クラブリーダーに、近隣にあるいは未開拓の地に新しいクラブを作る作業に取り掛かる前にこのマニュアルをよく読むことを促しています。

インドで40年以上活動が続けているシニアメンバーであるM. J. マッシュューズは、実践的な文章の中で、新会員がクラブに入会したときに新旧会員の両方が得をするような、互恵的な会員関係の無限の可能性を列挙しています。彼は、新旧両方の会員に、運動を成長させるためにエネルギーを与え、私たちの運動に関与するよう促しています。アフリカ北西区の理事であるジャタウ・ビクター・バソム・ディリは、個人的な視点から、YMCAとYMIの

表紙：ハイデラバードクラブのメンバーが日本を訪問した際、利根川恵子 ISD-IBC (ほかの川越クラブのメンバーと。ハイデラバードクラブ (インド) と彦根クラブの IBC の記事は、P10 を参照。

ワイズメンインターナショナル公式誌

国際本部: Ave Sainte-Clotilde 9, CH-1205 スイス

国際編集長: コシー・マッシュュー

日本語版翻訳グループ: 田中博之 (委員長、東京多摩みなみ)、

青木一芳 (千葉)、朝倉正昭 (東京世田谷)、

今城高之 (横浜つづき)、利根川恵子 (川越)、

太田勝人 (東京町田スマイリング)、比奈地康晴 (東京)、

倉田正昭 (京都)、田尻忠邦 (大阪)、谷川寛 (大阪センテニアル)、

谷本秀康 (東広島)、中井信一 (奈良)

印刷: (株)三浦印刷所 三浦克文 (岡山)

有機的な関係を前面に出し、それがどのようにお互いを豊かにすることができるのかを書いています。

今回のマイクロクロヒストリーの項では、これまでの地域やクラブにスポットを当てるといった慣習から脱して、多くのクラブではあまり注目されていない長年のプログラムのひとつである国際兄弟クラブ (IBC) を取り上げます。ここでは、55 年の長きに亘って続いてきた彦根 (日本) とハイデラバード (インド) のクラブ間の IBC 関係の事例研究を紹介しています。

また、マイクロヒストリーでは、エルマー・クロウとハリー・バランタインとは何者なのかという良く聞かれる質問にも答えています。どんな人物の名前に因んで YMI は名誉ある賞を授けているのでしょうか? 国際ヒストリアン事業主任のデビー・キャンベル・レッドモンドが保存文献から貴重な情報や写真を発掘してくれたおかげで、この世代のクラブ会員に紹介できるようになりました。

今号からは、2022 年の創立 100 周年記念式典に向けて、元国際会長を特集しています。この短いセクションをお読みいただき、これらの偉大な人たちが、私たちが偉大な運動と世界的な親睦を享受し続けることができる理由であるということに誇りを持っていただければと思います。

ワイズリー

コシー・マッシュュー

私の本棚から

人間至上主義の神話 by デリック・ジェンセン

この熱のこもった論争の中で、急進的な環境保護の思想家のデリック・ジェンセンは、自然のヒエラルキーと人間の優越性に対するほぼ普遍的な考えを否定しています。

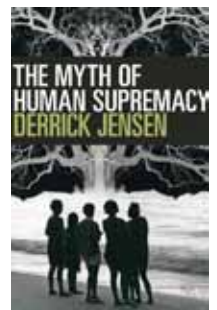
豚やプレーリードッグの文化から、ゾウや魚の創造的な道具の使い方、イモムシや菌類の知恵まで、人間以外の生命の、広大でまだ十分に評価されていない複雑さが詳細に探求されています。道徳的・倫理的な問題についての科学的確立の麻痺に直面し、人間以外の生命の知性と感覚を評価するための急進的な新しい枠組みが提示されています。

ジェンセンは、生態系の変化が、人間以外の生活をほとんど顧みずに、人間や経済にどのような影響を与えるかに議論を限定している主流の環境ジャーナリズムを攻撃しています。ジェンセンの特徴である思いやりのある論理で、私たちが人間以外の自然から切り離されると、私たちは、自然に対して反対の方向を向くことになり、それは、不公平で、長い目で見ればあり得ない立場を取っていると主張しています。

ジェンセンは、人間の産業複合体とその生態学的な過剰さを深く軽蔑し、それは地球を組織的に搾取していると主張しています。

全ページに亘って、環境運動の哲学者詩人と呼ばれるジェンセンは、自然界のすべての親密さに対する感謝を示し、人間の支配からの解放を切実に訴えています。(Goodreads レビュー)

(A Goodreads review から)



バーチャルに結ばれている世界での会員増強を考えよう グローバルクラブ結成の事例

グローバルという言葉は、世界(グローバル)と近隣社会(ローカル)というふたつのレベルの相互関係ないし課題の分かち合いを強調するために使用される合成語と理解されています。最近 2-30 年間、このグローバルの概念が、政治経済や教育など多くの場面で、人々が垣根を超えて相互作用に目覚め、世界への意識を高めるために用いられてきました。

新型コロナウイルス(COVID-19)大流行による旅行や会合の制限のお陰で、バーチャルな相互連絡が世界の人々の新しい日常形態になってきました。危機というものは新しい好機をもたらします。COVID-19 は、私たち YMI に、クラブを成長充実させる斬新な道を与えてくれました。この大流行下、ビデオ会議や LINE などソーシャルメディアによって私たちのクラブは、ますます結束し、活動的になってきました。過去にはほとんど見過ごしていた通信手段が、今や第 2 の本性になっているのです。クラブ会員がこうも速やかに新技術に馴染み、効果的に使うようになったことは、先例のない難題に直面したときの適応精神に資するだけでなく、わくわくするような新局面への門を拓くものでもあります。そのひとつが、YMI グローバルクラブなのです。

ひとつの YMI グローバルクラブは、近隣在住の「通常」会員と在住ではない「遠隔」会員とから成ります。管理運営上、通常会員は同一の(ワイズの)区内に最小限 5 人居ることが必要で、クラブは、その区に属します。新しいクラブを作る場合、時間に追われたり、地理的距離に無理があったり、移動手段が乏しかったりして入会しにくい会員候補がいるときは、彼らをバーチャル(遠隔)会員とすればよいのです。グローバルクラブの会員候補対象として、引っ越した元クラブ会員、さらには世界のどこかに住む知人、友人、家族が皆含まれます。このようにバーチャルにつながる新会員は、クラブ運営、仲間づくり、社会奉仕に新しい方向性を加えてくれるでしょう。クラブとしては、たびたびバーチャル会員を含む会合を持つこと、他方、現住の会員による顔を合わせた会合も続けることが大切です。グローバルクラブの目的は、従来からの通常のクラブと等しく、また、その活動は、会員の関心やリソース、そして社会(近隣そして世界の)の要請によってなされます。バー

チャル会員は、機会ある限り、努めて通常の会合に参集し、実体ある会員としてふるまうことが奨められています。

100 日間会員増強キャンペーン

「チャレンジ 22」の 1 項目として、各クラブも各区も、2020 年 9 月 1 日から 12 月 9 日までの「第 2 回 100 日間会員増強キャンペーン」への参加を求められています。昨年は、このキャンペーンにより 1,600 名のクラブ会員を獲得することができました。今年は、さらに 3,000 名の増強を目指します。このキャンペーンは、私たちが皆でワイズを PR する活動に結集する機会であり、また遠くや近くの友人たちとの絆を取り戻す好機でもあります。

ワイズの運動は、今から 2 年の内に奉仕 100 年を祝います。その時には会員が 100 か国 5 万名に達するのが目標です。そのためには、あと 30 の新しい国にクラブを作り、24,000 名の新会員を獲得することが必要です。これを実

現するには、世界のワイズ会員全員が自クラブ(または世界のどこかのクラブ)に 1 名の新会員を入会させることが絶対必要です。

全クラブが、近隣に、あるいは世界のどこかに、ひとつの新しいクラブを誕生させることが求められています。クラブ会員は、誰でも、自分の配偶者、子、孫をクラブの会員になるよう奨励することが要請されています。ほかに新会員の供給源として、YMCA や、ワイズと同様の目的を持つ NGO が考えられるでしょう。「22 年に向けて」のゴールが達成されるならば、それは、私たちのワイズ運動にとって歴史的な成功となることでしょう。全クラブ会員がこのキャンペーンに協力することによって初めて、この夢は実現するのです！

このキャンペーンを支援するために、国際議会は、会員の配偶者および 26 ~ 35 歳の若者が新会員になった場合、その分の国際会費納入額を半額に減額することを決めました。この特別減額は 2022-23 年度の前期まで適用されます。さあ、ご一緒に立ち働きましょう！

国際書記長 ジョース・ヴァルギース



ジェイコブ・クリステンセン国際会長就任



デンマークのジェイコブ・A・クリステンセン(写真中央)が元国際会長ヘンリー・グリンドハイムの司式でランディー・ペール夫人に見守られながら。

デンマークのジェイコブ・A・クリステンセンが2020-21年度（国際協会設立98周年）の国際会長に就任しました。おめでとうございます！デンマーク・リンケピングクラブの協力で開催されたバーチャルの式典において、元国際会長のヘンリー・グリンドハイムが司式を務めました。このバーチャルの式典では国際協会執行役員、国際議員の就任式も行われ、世界中から多くの会員が参加しました。

クリステンセン（定年退職した校長）は、1981年にワイズに入会し、現在、リンケピングクラブのメンバーです。彼は、2007年から2010年の間、国際議員を務め、2010年にはヨーロッパ地域の会長も務めました。教師としての経験をYMIで生かし、2012年以来、ヨーロッパ地域のLTOD事業主任を続けています。

IBC一覧編集者がバランタイン賞を受賞

オーストラリアのマレイ・スティーブンス（写真）が7月に行われた国際協会就任式で、名誉あるハリー・M・バランタイン賞を受賞しました。スティーブンスは、彼がIBCの国際事業主任であった1983年から始めたIBC一覧の編集長を継続して務めています。彼は、彼の住むオーストラリアのバララットで開催された会合の折に、クラブメンバーと共に受賞を始めて知りました。

スティーブンスは、40年以上、バララットクラブの活発な会員です。1983年から1985年のIBC国際事業主任を務めました。彼は、在任中、兄弟クラブの関係をコンピュータの助けを借りて国際のレベルで記録する事が更なる改善に寄与すると考えました。当時は、パソコンは、ほんの一部のマニアとしか思われない人にしか使われていなかった時であり、また、各事業所や中小企業で使われる以前の時でした。おめでとうございます！



新しい国際プロジェクトが採用されました。

ワイズメンズクラブ国際協会は、ジェイコブ・クリステンセン国際会長のリーダーシップの下で「WEEK4WASTE」（ゴミのための週）と呼ぶ新しいプロジェクトを採用いたしました。そして世界中の全てのクラブが参加することを希望しています。このプロジェクトでは、その当日または週にクラブのボランティアやパートナーの力を合わせてこの地球上にあるゴミ即ち廃棄物や不法に取り扱われている排出物を、海岸、河川、森林や道路からクリーンアップしようというプロジェクトです。（www.ysmen.org/week4wasteを参照）



「World Cleanup Day」（世界をキレイにする日）によって、人々が力を合わせれば、信じがたい大きなことを達成できます。このプロジェクトの良さは、協力と協働にあります。様々なコミュニティや市民、企業、政府等を含む社会のあらゆるレベルの架け橋となり得ることです。新型コロナの感染拡大によって世界各国でこの春と夏に予定されていた清掃の計画が遅れています。YMIは、国際的な団体として、2つの期間を設定しました。ひとつは、2020年9月で、もうひとつは、ワイズクリーンアップ週間として2021年4月18日から24日です。

直前ヨーロッパ地域会長 ウルリック・ラウリッセン

エクステンション — 他の人たちの知恵の上に築き上げる

元国際会長 ジョアン・ウイルソン (カナダ)

新入会員は、皆さんのクラブの生き残りに重要です。定常的な会員の増員は、ワイズメンズクラブにとっては命の血液です。クラブにとって、単に物理的な意味での生き残りということではなく、クラブを奉仕活動において、仲間意識において、さらには知識の面においてもより良くするものです。活発な会員増強は、地域社会におけるクラブの基礎を広げます。

クラブの活躍が増進すると、それに伴って地域社会におけるクラブの地位も向上します。すでに蓄積されたクラブの「知恵」のプールに新入会員の経験が加えられた結果、クラブは、地域社会のニーズに、より適合することができ、会員であることがより刺激的で興味深いものとなります。

新会員は、新鮮なアイデアや将来の有効なリーダーシップをもたらします。

上の文章は、新たに改訂された EMC リソースマニュアルの序文です。この資料には、潜在的会員の発掘方法や入会候補者に対する YMI 所属クラブの一員となるに必要な権利と責任に関する適切な情報、クラブ設立の方法と新クラブへの支援方法等の主要テーマが記されています。資料では、会員増強とその維持についての議論が続けられており、世界中のクラブの発展と繁栄を支援するための様々な助言や考察がリストアップされています。

幾つかの参考資料が掲載され、国境を越えたエクステンションやスポンサークラブの役目、クラブチャーターの手順などのアイデアを含む新クラブ設立の手順が示されています。

マニュアルを学ぶ

近隣であれ遠方の地であれ、私たちが新たなクラブを設立する際の重要な仕事を考えるとき、間もなく YMI の WEB サイト (www.ysmen.org/downloads) に掲載される EMC リソースマニュアルをリーダーが見直してみることが重要なことです。また、WEB サイトの同じ個所には、皆さんが強靱で長続きするクラブを設立する努力を支援するにふさわしい様々な事項が掲載されています。それには、「YMI に関する ABC」や「YMI の簡単な紹介」冊子、「ブリテン編集者マニュアル」、「PR マニュアル」といった新しいクラブにすぐ役立つ資料が含まれています。

これらのマニュアル類は、最近、YMI の現状をより反映するよう改訂され刷新されました。同様に、私たちの根幹をなすポリシー（方針）に関する文書も、より正確で使い易いよう改訂、刷新されました。これら改訂作業は、スペイン・ハヴァッグ委員長のもと、勤勉なチームの「マニュアル改訂委員会」(MRC) の手により行われました。数年前より MRC の役目は受け身から変化を求めるように変わり、すべての文書を、開発し、完成するように先を見据えて体系的に、見直しを行いました。これによりチームは、突如として、膨大な文書の見直しや刷新するなど時間のかかる役割を担うこととなりました。これらの文書の中には、20 年以上も見直されていなかったものも含まれていました！過去 3 年間、MRC チームは、こまめにひとつひとつの文書に取り組み、今や、YMI

の WEB サイトに掲載されているマニュアルやポリシー文書のほとんどの見直しや更新が完了しています。この厳しい作業に引き続き、2～5 年をかけ

て文書の重要度に応じて、体系的で循環的な見直し作業が行われます。

健全なクラブの要件

さて、ここでエクステンションに戻しましょう。スポンサーク

ラブにとっては強力な活気のあるクラブの

質を手本とすることは大切なことです。ここに挙げるのは、EMC マニュアルから引用した健全なクラブの要件です。

- *定期的に計画された会合
- *かつ、楽しみや親睦を伴う
- *情報に富んだクラブブリテン
- *良いプログラム
- *可能な限りの YMCA とのパートナーシップ
- *意味ある奉仕プロジェクト
- *効果的な資金づくり
- *国際的プロジェクトや国際的プログラムへの参加
- *可能な限りのクラブ訪問

さて、皆さんのクラブは、これらの要件のすべてを満たしているでしょうか？ もしそうでないなら、たった今から、新クラブ設置を目指す際には、これらの要件を基盤に仕事を進めてください。皆さん自身のクラブの会員増強と維持が、いかなる有効なエクステンション活動を支援するに際しても重要な要件となることに留意してください。これらは、相携えて進むものです。

私は、皆さんが、YMI の WEB サイトにある様々なマニュアルやポリシー文書をチェックしてみることをお勧めします。これらは、皆さんが進める EMC 活動および皆さんが関わる他の活動を支援する多大な情報を提供してくれます。個々の分野でスキルを発揮する人の知恵に目を向け、それらを自らが置かれた特別な状況に適切に当てはめることを記憶にとどめてください。ご一緒に行動すればより皆さんのことができます！



近隣であれ遠方の地であれ、
私たちが新たなクラブを設立
する際の重要な仕事を考える
とき、EMC リソースマニュアル
をリーダーが見直してみる
ことは重要なことです。

会員について

会員の皆さん—精力的に行動し、真剣に取り組みましょう

元南インド区副理事 M・J・マッシューズ



ワイズメンズクラブ国際協会(YMI)は、会員制の組織であり、地域社会振興と地域社会全体の生活改善に対する情熱と献身を共有する会員によって構成されています。その会員は、一丸となって自らの属する地元社会と地域社会全体の改革を先導します。この組織

の会員であることによって、行動を起こし、地域社会に変革を起こす機会を与えられ、その過程で個人的な報いと生涯続く友情を得ることができます。

他の奉仕団体と一線を画する YMI の特徴は、その活動に家族が参加するよう奨励されている点にあります。従って、ワイズメンズクラブは、会員とその家族に個人的な親睦および共通の価値観・理想を分かち合うことの喜びに加えて、自らが属する地域社会をより良い生活の場にするという満足感を約束してくれます。

ワイズメンズクラブに入会することは、奉仕活動の実践という雰囲気の中で活動し、考え、楽しい時を過ごす組織に入会することを意味します。つまり、ワイズメンズクラブは、言葉よりも行動を重んじる世界的親睦団体なのです。

義務

私たちは、ワイズメンズクラブ国際協会という旗印を掲げ、一人では成し得ないことを成し遂げるために団結している人々の集団なのです。私たちの共通の義務は、自分たちを取り囲む地域社会への奉仕活動を通してワイズという組織の発展に真摯に取り組み、そうすることによって喜びと、支援、分かち合いの精神で周りの人たちと私たちの成功と幸福を共有することです。

従って、現在実施されている「100日間会員増強キャンペーン」の期間中に私たちは、協力して、既存のクラブの新入会員を増やし、新しいクラブをチャーターすることによって会員増強に努めなければなりません。この点に関して、バーチャル会員という発想は、極めて斬新かつ独創的な考えです。何故なら、多くの専門職に従事する人たちは、年齢を問わず、実際の会合に出席する時間を見つけることが出来ないかもしれませんが、ワイズという地球規模の組織の一員になりたいと願っているからです。それ故に、このデジタル環境の整備は、市・州・国の様々な場所から全人類のために奉仕したいと願う同志を集結させる好機なのです。

ワイズメンズクラブの会員であることによって得る名誉と光栄には、多くの報いが伴います。

しかしながら、YMI は、それぞれの会員に責任と義務を付与します。会員は、定期的にクラブ例会に出席し、クラブ内奉仕を分担し、ワイズ運動の目的を地域社会の日常生活の中で実践するために自らの知識と才能を活用するよう期待されているのです。

会員の基本的義務には、以下の項目が含まれます。

◆会費の納入

◆自分の専門的技術、才能、社会における独自の地位を地域社会改革のために活用する。

◆クラブ内やワイズ組織内で指導的役職を自発的に務めることによって組織全体

ワイズメンズクラブは、会員とその家族に個人的な親睦および共通の価値観・理想を分かち合うことの喜びに加えて、自らが属する地域社会をより良い生活の場にするという満足感を約束してくれます。…YMI は、あなたが入会する単なるクラブではありません。無限の好機にあなたを導き入れてくれるものです。

に貢献する。

◆献金はもとより親切や奉仕の実践も、それらの永続的影響を目にするために重要です。

会員であることの恩恵

一人の会員として、社会に恩返ししようという強い気持ちを共有している人々の多様なグループと繋がることを含め、多くの恩恵を享受することができます。一人の会員として定期的に開催される例会や行事を通じて、地域社会のニーズについて話し合い、そのニーズに応える創造的方策を策定することが出来るのです。また、世界を変革しようとしている自分たち以外の指導的立場にいる人々と繋がり、指導力と専門技術を伸長し、良い友人たちと共に歩み、新たな友人たちとの出会いも生まれるのです。

その様なインパクトは、会員—地域社会全体と自分自身の中に永続的な変革を生み出すために行動する同じ世界観を持つ人たち—との関係から生まれるのです。つまり、YMI は、あなたが入会する単なるクラブではありません。それは、無限の好機にあなたを導き入れてくれるものです。

クラブが得る恩恵

一人の会員が、クラブに与えることの出来るインパクトを認識する必要があります。新入会員の一人一人が少しずつクラブを変革し、新たな視点と新たな経験をクラブにもたらします。私たちは、このような継続的な組織の若返りを進んで受け入れるべきです。新入会員から学び、彼らの経験と知識を取り入れることで私たちは、より揺るぎのない組織に成長するのです。

新たな人々と出会い、彼らが会員であることを楽しめるよう務めることで心が躍ります。互いに仲間がいることを楽しみ、何をしても大いに楽しいのです。私たちは、このような喜ばしい経験を進んで受け入れる必要があります。特に、協働することにより効率的に仕事をこなせるのです。その意味で、厳しい冬

12 ページへ続く

アフリカワイズとの私の旅

アフリカ北西区理事 ジャタウ・ビクター・バンソム・ディリ

私は機械（生産）エンジニアの資格を持っています。カドゥナ工科大学を卒業後、ドイツ最大の社会的・教育的組織の一つであるCJDで高度な研修を受けました。その後、カドゥナのYMCA職業訓練センター(VTC)に勤務し、職業訓練センターの校長として35年間勤務した後、2013年に退職しました。現在は、ナイジェリアと海外のいくつかのNGOのコンサルタントをしています。

YMCAとの最初の出会いは1974年のボーイズクラブで、その後1978年にカドゥナのYMCAに就職しました。ナイジェリア内外のYMCAや他の組織で多くの研修を受けました。このことが、YMCA職業訓練センターの校長としての仕事に役立っています。これまでのキャリアの中で、私は主に若者の知識の開発と普及に取り組んできました。

カドゥナのワイズメンズクラブは1983年に創立されました。式典は、トゥドゥン・ワダ・カドゥナのYMCAホールで行われました。私はYMCAのスタッフとして式典に出席し、そこで刺激を受け、その後1989年にワイズメンズクラブに入会しました。2007/08年にはクラブ会長になりました。その役職には多くの挑戦と機会がありました。

リーダーシップの役割

2007/08年のクラブ会長から、2011年にナイジェリア部の次期部長(DGE)になるにはそれほど時間がかかりませんでした。そして2012年から2014年までナイジェリア部部長を務めました。部長として、私は衰退したクラブを復活させ、新しいクラブを立ち上げるために最善を尽くしました。私は、カドゥナ州チクン地方政府地域のカカウ村で、地区農村部の診療所を始めました。診療所は屋根の高さまで建てられましたが、資金不足のため、診療所を地域社会に引き渡す前に計画通りの設備を整えることができませんでした。しかし、コミュニティはそれを完成させ、有効に活用しました。

次期アフリカ北西区理事(RDE)の役職が公示されたとき、私は、何人かのリーダーから、この役職に立候補するように推薦されました。私は消極的でしたが、指名を受けざるを得ず、その後、無投票で当選しました。不幸な事故のため、十分な準備と区の仕事に触れることなく区理事に就任することになりました。私の前任者である現職理事であったカメルーンのアベソロ・ムバルガ博士は、その年の初めに交通事故に遭い、区理事としての職務から遠ざかっていました。シェリフ・アワド直前アフリカ地域会長は、選挙結果が発表されるとすぐに私に区理事の務めを引き継ぐように要請しました。厳密には、私は区理事として引き継ぎをする前に、次期区理事として必要

な1年間の義務を果たしていませんでした。2019年4月から、私は、アフリカ北西区理事を務めています。2年の任期です。

会員の関心を高める

様々な背景を持つ人々が様々な理由でワイズメンズクラブに入会しています。クラブのメンバーをまとめて維持するには、スキル、動機、包摂性が



必要です。YMCAに勤務していた時、私が最も大切にしていたスローガンの一つが「YMCAはプログラムである。」です。

クラブにやる気を起こさせるプログラムがあれば、会員は、いつでも次の例会に出席する気になります。クラブと区の両方のレベルでの在職期間を成功に導いたひとつの要因は、会員との個人的な関係を築くことでした。これにより、指導者としての仕事が楽になります。

サーバントリーダーシップ（奉仕的リーダーシップ）のスタイルは、私がその年に設定した目標を達成するのに大いに役立ちました。私がワイズメンで気に入っているユニークな点は、メンバー全員が潜在的なリーダーであるということです。また、役職がその人を求めています。これらの属性は、ワイズダムならではのものです。

受賞に拍車をかけられて

私は、国際事務局からの様々な評価基準に基づいた区業績賞の金賞を少しも期待していませんでした。しかし、このような評価をいただいたことに感謝しています。この賞のおかげで、私はもっと頑張ろうと思うようになりました。私の区が現在直面している課題を乗り越えるために、可能な限りの努力をしていきたいと思います。私は、アフリカ北西区が正しい位置に戻る道を歩んでいると楽観視しています。

私は、「学校に行っていない子どものプログラム」という長年実施してきたプロジェクトを続けたいと思っています。これは、ボコ・ハラムや牧畜民、盗賊の攻撃によって孤児となった何千人もの子供たちに、学校に戻る機会を与えることを目的としています。現在、資金難のため、180人の子どもたちしか、このプログラムの恩恵を受けていません。2020年10月にガーナのアクラでリーダーを対象とした区の研修会が開催され、2021年3月にはナイジェリアのアブジャで区大会が開催される予定です。これらのイベントは、アフリカ地域をより高みへと導くために必要な後押しと関りをメンバーに与えてくれます。これが私の信念であり、次の挑戦です。

ワイズメネット・プロジェクトコーディネーターのジョイ・マクナマラからの書簡

2018-2020 年度のワイズメネット国際プロジェクトの近況報告: アルバニア・ティラナでの
ユースの雇用支援と社会との接点を持つビジネス開始のコーチング

既にお伝えしたように、アルバニアに於いて、ティラナやその他の地域で発生した大地震のために甚大な被害を受けたことでプロジェクトは、当初の計画より遅れてしまいました。

そしてさらに、このプロジェクトが、まさにクラブカフェを開店しようとしていたとき、COVID-19 発生によりロックダウン（都市閉鎖）の状態に巻き込まれてしまいました。家賃や公共料金救済の制度もなかったため、自分たちで支払わなければならませんでした。

ティラナ YMCA の主事であり、かつ同プロジェクトの責任者であるエグラ・ルーラは、最終的にカフェを開店してビジネスを開始したいと発表致しました。

しかし、採用を決めていたスタッフは、このロックダウンのため実家に戻ったままで YMCA のあるティラナに来ることが出来ませんでした。そこで仕方なく新しいスタッフを1名採用し、他の追加スタッフを探している間エグラは、スタッフがやる仕事を行っていました。私たちワイズメネットは、私たちの国際プロジェクトを着実に推進していく、このような人を得て大変幸運であると思っています。

対処しなければならない課題が極めて多くあり、その後発生した追加の諸経費と支払い遅れ分に基づき、私たちは、直前国際メネット主任のジェニファー・キャメロンや新しい国際メネット主任のグレーテ・ベークガード・トムセンとも相談し、プロジェクトの完遂のために追加分として 6,000 スイスフランを上限に提供することを決めました。まだ支払

わなければならないものもあります。

2020-2022 年度の私たちのプロジェクトは、やや控えめなプロジェクトとなっていますので、私は、現在のプロジェクトに対してもっと支援を増やしていけると信じています。プロジェクトの遅れの原因は、前もって予見できたものではありませんでした。

エグラが私たちに語ってくれた新しく社会と接点を持つビジネス「TOK」という意味は、昔からあるアルバニアの言葉で、「皆、一緒になって」という意味であり、このことを覚えておく必要があると私は、思っています。

ジョイ・マクナマラ



追伸: 2020-2022年度の国際プロジェクトに投票いただいた33のクラブに対して喜びを持って感謝申し上げます。

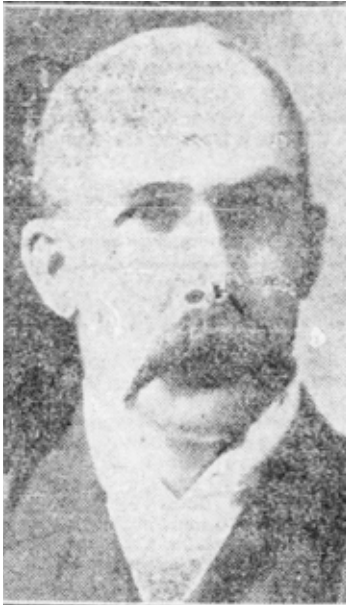
プロジェクトを選択するに際して、3つの大変重要な要因を持っていたので、クラブの皆さんが判断するのに困難が伴ったと思います。

選ばれたプロジェクトは、「脆弱な子供たちが健康的なライフスタイルを普及促進していく手段としてのスポーツと非公的教育」であり、YMI から 15,000 スイスフランの支援を得て、期間半年から1年間、ウクライナ・ザポリツィアにて実施されるものです。孤児や貧しい子どもたちの面倒を見ている地域センターのグラウンドに、ジムも揃えた野外スポーツを楽しむことが出来る施設を作ります。それは、地域社会の資産となる事でしょう。



ハリー・バランタイン (1876-1965)

ハリー・バランタインの名前は、その名前に基づいて創設された賞によって、多くのワイズメンが知っていますが、その人物については、ほとんど知りません。ハリーは、カナダで1876年に生まれ、1965年に亡くなったYMCA



のスタッフでした。その経歴を通して、カナダのYMCAにおいて、少年たちと青年たちに優れた指導をした彼は、最後は、カナダYMCA同盟総事に選ばれています。

1923年の新聞報道によれば、ハリーは、11月にノバスコシア（カナダ）のグレイズベイまで旅行して、そこのYMCAとその建物のために貢献した人々について話をしました。彼らは、古い兵舎の建物を

手に入れ、あらかじめ用意していた適当な場所まで水上を運び、建物を修理し、掃除し、何か月もかけてYMCAとして準備したようです。それらの熱心な若者の中に、1923年1月にチャーターされた、ノバスコシアのシドニークラブから来ていた者がたくさんいました。ハリーは、ワイズメンズクラブを認めて支援しましたし、各YMCAがそれぞれのクラブを設立するのを奨励しました。彼は、1929年のトロント、1930年のペンシルベニア州のウイルクス・バリでの大会に、基調講演者のひとりとして参加しました。彼は、1931年のカナダ全国YMCA評議会においてワイズメンズクラブ代表の投票権を確保する等の支援を行ないました。これは、米国のYMCA同盟が全国レベルでワイズメンズクラブに対していかなる認知を行う前なのです。

1950年代に、ハリーがカナダYMCA同盟の仕事から退職した際には、彼はポール・ウィリアム・アレキサンダー判事に多くの資金を提供し、それが、「長期に亘ってワイズ運動に特別な価値と有用な支援を提供した」、特にワイズダムの友として値する人へ適宜授けられる賞として供与されることになったのです。アレキサンダー判事は、それが、ハリー・バランタインに敬意を表して命名されるべきと信じましたが、それは、正に彼が長年に亘って、ワイズメンを強力にそして継続的に支援してきた人物だったからです。

ISD-ヒストリアン デビー・レッドモンド

エルマー・クロウ (1898-1938)

カナダのバンクーバーのワイズメンズクラブが1924年にチャーターされた時、エルマー・クロウは、その創設メンバーの一人でした。バンクーバーの著名な上院議員の息子であった彼にとっては、公的な分野における仕事は、彼の人生の重要な部分であったと思われます。このバンクーバークラブは、自らのワイズメネットクラブを作りましたが、それは最初の女性のための正式なクラブとなりました。エルマーの夫人、マルシアは、創設メンバーでした。ポール・ウィリアム・アレキサンダーは、1924年の夏に、エルマーとマルシアを訪ねて彼らと過ごしていますが、彼の訪問時のスクラップブックにはこの最初のワイズメネットクラブの写真が含まれています。

エルマーは、クラブ会長になり、国際大会において積極的に活動しました。エルマーは、米国とカナダの一部を含む、太平洋北西区内の部長に選ばれています。その後、彼は、区理事にもなっています。ある種の慢性疾患に罹っていたエルマーは、1937年のミシガン州グランドラピッツにおける国際大会に参加中に著しく悪くなって



しまいました。会議終了後車で帰る途中、状態が非常に悪くなり、残りの1,650マイル以上の旅程（シャイアンからバンクーバー）を、飛行機で帰ることになりましたが、妻のマルシアは、ひとりで運転して帰りました。1938年のトロントでの国際大会では、回復はしましたが、非常に弱っていた彼は、評議会や大会の主要場面に出席するのに固執したのですが、帰宅後3週間を経ずに亡くなりました。

亡き夫に敬意を表するために、エルマー・クロウの名前で賞を設立する目的で、マルシア・クロウは国際協会に対して献金を行いました。彼は、部長として奉仕し、多くの時間と努力を組織に注いだのですから、その賞は、傑出した部長に対しての賞以外に考えられるものではありません。

ISD-ヒストリアン デビー・レッドモンド

マイクロ・ヒストリー

彦根／ハイデラバードワイズメンズクラブの IBC 関係・栄光の 55 年(1965 年～ 2020 年)
元国際議員&元国際事業主任 V・ビジャヤ・クマール(インド・ハイデラバード・ワイズメンズクラブ)

彦根ワイズメンズクラブとの国際兄弟クラブ (IBC) 設立の提案は、1964 年にハイデラバード (インド) YMCA の D・S・チナドライ総主事が彦根を訪れ、当時 60 代後半だった彦根ワイズメンズクラブと YMCA のハッピー西森との親交を深めたことがきっかけで実現しました。

西森は、インドとジャワハルラール・ネルー初代首相を敬愛しており、コミュニケーション能力に優れていました。西森は、日本のマスコミのインド関連、特にネルーや他の指導者についての切り抜きを大量に送ってきました。この 2 人のベテランのイニシアチブにより、2 つの兄弟クラブの関係は、大きく進展しました。

発展

ハイデラバードワイズメンズクラブは、1969 年末から 1970 年初めにかけて、ハッピー西森をインド訪問に招待し、支援しました。西森の訪問は、ハイデラバードと彦根の親睦の絆をより強固なものにしました。その後、西森から写真や記念品、バッジ、その他の記念品が定期的に送られてきましたが、それらはクラブメンバーの間でオークションにかけられ、その収益金は、ブラザーフッド・ファンド (BF) に寄付されました。クリスマスと新年のシーズンやその他の機会には、双方からの挨拶の交換が定期的に行われるようになり、カードにはクラブの全会員のサインが入っていました。

デュンドー・バラクリシュナ・ムルティ理事 (インド・スリランカ区、1973-74 年)、S.R. キルパディ教授らが彦根を返礼として訪問し、クラブ会員の温かいもてなしを受けました。

70 年代にハッピー西森が逝去した後、彦根クラブの指導的役割は、島野喜道元理事に引き継がれました。島野の積極的な指導のもと、両国間の定期的な交流や親善訪問などを地道に続け、友好関係は、深まりま



ハイデラバード空港で、デュンドーバラクリシュナムルティ氏とハイデラバード YMCA 理事長の D・A・シャー氏の出迎えを受けるハッピー西森(彦根)

した。島野は、これまでに 40 回ほどインドとハイデラバードを訪れており、年に 1 度、彦根からワイズメンや YMCA のメンバーを率いてハイデラバードでのスタディ・ツアーを行っています。

ここ数年、毎年 12 月の最終週には、彦根ワイズメンズクラブメンバーと徳田望主事を代表とする滋賀 YMCA の一行がハイデラバードを訪れ、そこで新年を迎え、ハイデラバードのワイズメンのもてなしを受けています。私たちの「日本に乾杯」プログラムは大変好評で、日本から訪れている YMCA やワイズメンズクラブの多くが参加してくれました。



2018 年、彦根を訪問したハイデラバード訪問団のメンバーと彦根クラブのメンバーの記念写真

より親しい絆の構築

1958 年設立のハイデラバードクラブのチャーターメンバーであった元国際議員、元地域会長 V・ナラシンハ・ラオは、日本からの訪問団のためのホームステイやもてなしの手配に尽力しました。IBC との関係の維持と発展に対する彼の計り知れない貢献は、称賛に値します。彦根からの訪問団のために、地元の YMCA での懇親会や一般公開のミーティングなど、多くの行事や活動を個人的に手配し、クラブ会員や州政府関係者、閣僚が多数参加しました。年に 1 度の日本代表団の 10 日間の訪問は、ハイデラバードでのお祭りのような行事となりました。来日したワイズメンにホームステイを提供したクラブ会員の多くの家族は、彼らとの間に驚くほど親密な家族の絆を築き、現在に至るまで続いています。

これまでに 350 名以上のワイズメンが滋賀県からハイデラバードを訪れ、インドの文化や教育制度、人々の暮

らしぶりなどを学んできました。また、地元の歴史的建造物を訪問したり、ハイデラバード周辺の歴史的建造物を見学したりしています。島野喜道は、大久保貴、長谷川等などとともに、多くの家庭でその名前が親しまれています。

相互訪問と周年行事

1988年に、ナラシンハ・ラオは、V・ゴパラ・クリシュナ・ラオ、G・スレイニヴァス・チャクラヴァルティ博士、K・ナガブシャナムとともに彦根を訪問しました。1992年に、彦根クラブが設立40周年を迎えた際には、ハイデラバードから特別ゲストとしてB・N・ムルティとV・ビジャヤ・クマールが招待されました。1998年12月のハイデラバードクラブ設立40周年記念式典には、島野と素晴らしい芸術家である安子メネットを来賓として招きました。



ハイデラバード YMCA で開催された「日本に乾杯」プログラム

ドクラブの元会長であり、著名な芸術家でもあるT・ラマカンスは、2014年に彦根文化センターで絵画の展覧会を開催しました。

IBC トライアングル

ハイデラバードクラブは、沼津ワイズメンズクラブ（東日本区）ともIBCの関係を築き、IBCトライアングルを完成させました。長谷川等のリーダーシップの下、沼津からも多くのワイズメンがハイデラバードを訪れました。



沼津ワイズメンズクラブのメンバーとハイデラバード訪日団

その年、彦根クラブとハイデラバードクラブが、IBC締結40周年を迎えたことを記念して、盛大に祝賀会が行われ、カラフルなポスターが公開されました。彦根市とハイデラバード市の姉妹都市関係の確立に向けて、市長や政府レベルでの取り組みが進められました。元国際議員のV・ビジャヤ・クマールとその妻のV・ラマ・デビは、2002年の彦根クラブ設立50周年記念祝賀会に来賓として出席しました。クマールは、ハイデラバードクラブのメンバーと一緒に何度か来日しています。彦根クラブ設立50周年記念行事の一環として、バラタナティヤム舞踊の名手であるU・V・L・アナンド元部長が、彦根城博物館で舞踊を披露しました。ハイデラバー



1992年、東京クラブを訪問したハイデラバードクラブのB・N・ムルティ、V・ビジャヤ・クマール

彦根クラブとハイデラバードクラブが頻繁に相互を訪問し、アイデアや贈り物を交換することで、IBCの関係は、花開き、親善と楽しい思い出の詰まった「巨大な木」となり、両国の会員とクラブレベルでの切っても切れない絆を築いてきました。この絆がさらに強まり、将来的にはさらに多くの枝を伸ばし、香り豊かな花を咲かせ、充実した交流活動の実を結んでいくことを確信しています。

(敬称略)



ハッピー西森にワイズメン・バッジを贈呈するデューンダー・バラクリシュナ・ムルティ



当時のアンドラプラデシュ州首相のチャンドラバブ・ナイデュに花束を贈呈する島野喜道



藤井寛敏元国際会長とハイデラバード訪日団

「隠された宝石」— あなたの物語は何ですか？

デビー・レドモンド ISD- ヒストリアン

私たちのクラブの多くは、資金の提供だけでなく、困っている人たちにサービスを提供し、私たちのコミュニティーに違いを生じさせる活動に一生懸命です。しかし、クラブを超えた活動が、どれだけ求めている人たちにインパクトを与えているか知っている人はいるでしょうか？ 私たちは、自分たちの活動を自慢するのではなく、創設者ポール・ウィリアム・アレキサンダーが当時行った事と同じやり方で謙虚に行うだけなのです。あなたのクラブはどれくらいの期間、求められるサービスを提供してきましたか？ 何人の人が、あなたの寛大な心に感動しましたか？

言い換えれば、奉仕で築いて来たクラブの歴史はどのようなものでしょうか？ 重要な奉仕活動が始まってから、あと2年で100年が経ちますが、それについて語られている話は、まだほとんどありません。

一例として、トレドセントラルクラブ（ポール・ウィリアム・アレキサンダー所属のクラブ）は、最初の数年間、悪戦苦闘しているYMCAを支援するために一生懸命働き、YMCAの崩壊を防ぐために資金調達をただけでなく、外国にある数々のYMCAに「世界奉仕」（ワールド・サービス）を提供するための資金を援助しました。軍事基地の兵士からサマーキャンプの若者まで、すべての人を楽しませる数々のクラブがありました。例えば、ポール・ウィリアム・アレキサンダーは、優れた歌手兼ピアノ奏者でもあったので、仲間のクラブメンバーと共に、兵士、子どもたち、仲間のワイズメンズに音楽をしばしば聴かせて楽しませていました。



ホームレスのための靴下とサンドイッチ(カナダ・オタワ 2019)



グランドラピッズのサンタたち (2018)

した。1922年以降、クラブの急速な広がりに伴い、主となる問題は、クラブが自分たちのコミュニティーだけでなく、常に求めている他の人たちにも同様に奉仕する必要があるということでした。クラブは決まったガイド

ラインに従う必要は無く、それぞれのクラブの範囲を超えて、人々を変えていくことが期待されています。



米国・フレズノ・グロービス(2017)

多額の資金を調達することと、グローバル・コミュニティー（地元とそれを超えたものに）に大きな影響を与えることとどちらがより大切でしょうか？

アーキビスト（保存文書管理者）のライアン・ビーンは、「もし、グローバルな物語とグローバルな活動に関わりたければ、座って自分のクラブ、区、地域の歴史を振り返り、関係した人全員に影響を与えた10の出来事に絞り込んでください。」と言いました。私たちは、活動している写真が欲しいのです。活動の写真は、「百聞は一見にしかず」で多くを語りかけます！ 会合の写真も記録としては大切かもしれませんが、クラブメンバーの誰かのために何かをしている写真が、重要なのです。

6 ページからの続き

を勇敢に生き延びようとしたヤマアラシの群れの話は、核心を突いています。

ヤマアラシたちは、暖かさを保つために体を寄せ合うことに決めました。彼らは、凍死から身を守ることは出来たのですが、鋭い針が一番近くに居る仲間を酷く傷つけたのです。それで、互いに傷つけることのない安全な距離を保つことに決めました。すると間もなく一匹になったことで死にはじめ、群れ全体が凍死しそうになりました。

しかし、厳しい冬を生き延びようと彼らは、互を守るためにもう一度身を寄せ合うという賢明な決断をしたのです。ヤマアラシたちは、他の仲間の体から熱を得るために、小さな傷を負いながらも身を寄せ合うすべを学んだのです。そうすることにより彼らは、生き延びることが出来ました。

最善の人間関係は、非の打ち所のない人たちを集めること

によって築くことは出来ません。それは、ひとりひとりが他者の欠点を受け入れて生きることを学び、他者の長所を称えることによって構築できるのです。

結論として、ゼネラル・エレクトリック社の元最高経営責任者であるジャック・ウエルチの言葉をワイズメンズクラブの文脈に置き換えて述べたいと思います。「あなたのクラブ全体の成果について知る必要のある事柄を、ほとんど全て網羅する尺度は、わずか3つしかありません—それは、会員の献身度、地域社会の満足度、会員数の増加の3つです。最後に、大小を問わず、どのクラブも与えられたミッションを信じ、それを実現するすべを理解している精神的な会員なくして長期的に成果を上げることが出来ないのは、言うまでもありません。」

会員の皆さん—年齢を問わず—精神的に行動し、クラブの活動に真剣に取り組まましょう。

ラテンアメリカ:新型コロナウイルスを押し返す

1. ペルーのサンボルハ・ワイズメンズクラブは、ヴィラ・マリア・デル・トリウンフォの町にある 200 人が所属するコミュニティの「クリスト・サルバドール」に重要な寄付をしました。この組織は、共同資金で構成されており、サンボルハクラブが行った献金は、この共同体事業を維持するための援助でした。標高の高い地にあるこの町は、冬の時期は、特有の厳しい気候条件下に直面するので、暖かい衣類も寄贈してきました。



2. ブラジルのサンパウロジャバクアラ・ワイズメンズクラブの若者たちも、新型コロナウイルス感染症の大流行に対し行動を起こしました。彼らは「連帯市場」という事業を立ち上げて、YMCA CDC ライデ・ダス・ネベスが奉仕するその地の弱い立場にある 120 以上の家族へのサービスを支援しました。家族たちは、生活に必要な量の食料を家に持ち帰り、もっと必要な場合には、YMCA に戻って取りに来ました。それによって、より公平な食料分配を行うことが出来ました。



3. 電話会社アンテル・インテグラル社から寄贈された 6 台のコンピュータは、ウルグアイのモンテビデオ Y サービスクラブによって、ロータリー・クラブと共に、ラ・テハとピエドラス・ブランカスの YMCA テハニトスプロジェクトに届けられました。新型コロナウイルス感染症の蔓延の中、私

たちのコミュニティで最も不利益を被っている人々に教育とコミュニケーションを可能とするテクノロジーを持つことが、特に大切です。



4. ブラジルのサント・アマロにあるサンパウロ・ワイズメンズクラブは、CDC (YMCA) と協力して、このような苦境の時期の家庭をサポートするため、「グッド・マーケット・プロジェクト」を始めました。クラブのメンバーが作った料理とマスクを各家庭に届けるために、安全対策を正しく施し、感染を避ける配送スケジュールが作成されました。



5. パンデミック期間中、ブラジルのラパ・ワイズメンズクラブは、ホームレスや地域社会の弱者に食料を提供しています。60 日間に 17,600 食を超える食事が届けられました。



これら 5 件の記事は、ラテンアメリカ地域のブリテン編集者であるマリルズ・ヴァスケズから投稿されました。

地域からのニュース

オーストラリア:ともにいることの喜び

ポートピリーは、南オーストラリア州の州都アデレードから北 230 キロにある地方都市です。この町は、農業と漁業、さらにはニューサウスウェールズのプロークンヒルから産出される鉱物の加工で成り立っている町です。

ポートピリーは、さらに景勝の地フィンダーズ・レンジズそしてさらに奥地への玄関口です。

ポートピリーワイズメンズクラブは、チャーター 50 年を超えています。長きにわたり地域に密着し、地元の YMCA とも密接に関わってきましたが、最近 YMCA は閉鎖されました。

現在、南オーストラリア州の新型コロナウイルスの感染状況はさほど悪くないので、同クラブは、7 月中旬に役員交代式を行うことを決めました。このクラブは大規模ではありませんが、長年の友人たちが結束し、お互いにしっかりとサポートをしていて、長期間、寄付や支援活動を行ってきました。

長い間、同クラブは、ランチに美味しい魚料理を提供することでオーストラリア全土のクラブに知れ渡っています。交代式には、アデレードクラブからも多くの参加者があり、屋外で冬の陽ざしを浴びながら、キス、イカなどの相変わらずの素晴らしい魚料理を、みんなで楽しみました。

直前国際会長のジェニファー・ジョーンズが 2020-21 年度の新役員の就任式の司式を執り行いました。部長のロ



ン・ファークハー（プロークンヒル）は、新型コロナウイルス禍による地域間移動規制のため参加できませんでした。新しい次期役員は:ピーター・スタンデン（会長）、ボブ・フイメーリ（副会長）、アラン・ペイン（書記）、ダリル・フランクリン（会計）です。彼ら新役員は、今までに経験したことない不確実性の中でクラブをリードしていきますが、彼らの幸運を祈ります。

この日参加した多くの出席者は、この地「Down Under」（オーストラリア）でこの日をともに集まって迎えられた喜びに、美味しい食事をともにできたことに感謝し、この厳しい時代にワイズ運動を再構築する期待とともに帰途に就きました。

直前国際会長 ジェニファー・ジョーンズ

日本:パンデミックを乗り越えて「こども食堂」を支援

東日本区の東京ひがしワイズメンズクラブは、2018 年 4 月にスタートした東京 YMCA 東陽町コミュニティセンターの「こども食堂」（「下町こどもダイニング」）プログラムを支援しています。このプログラムでは、家族と食事する機会のない子どもたちに食事を提供しており、毎回約 20 名の参加者が集まっています。

食事の前には、スタッフ / ボランティアリーダー（Zoom による参加もあり）による歌の指導やゲームを行っていて、

子どもたちは、友だちとの時間と、美味しい食事を楽しんでいます。

コロナ禍の中、3 月～5 月はやむなく中止となりましたが、6 月からは、より広い会場で開催し、席の間隔を広げ、換気を行い、机の上に衝立を立てて、マスク着用、検温、手指消毒も実施し、また、弁当の容器で配食するなど十分な感染防止対策の上で、再開しています。

東日本区広報・PR 専任委員 渡辺大輔



左:食事前の楽しいゲームのひとつ

右:子供たちの食事を作る、東京ひがしクラブのメンバー

米国：コロナ禍の彼方に希望の光

ウイルスが私たちに襲ったとき、米ミシガン州のマスキーゴン・ヌーン・ワイズメンズクラブは、第57回目となるホワイトエレファントセールという名の不用品市の計画を固めていました。この強力な不用品市は、キャンプ奨学資金のための募金活動で、過去しばしば2～3.5万米ドルの収益を上げています。しかし、州知事は、今回の世界的流行の感染症と戦うために、すべての公的イベントの中止を決めました。ペンダロウワンキャンプ場は閉鎖され、多くの従事者をレイオフしました。しかし、私たちは、募金活動を中止しませんでした。私たちの不用品販売を扱うオンライン販売会社は、直接の配達を約束してくれました。

最大の商品提供者であるニコラス・ペーパーは、感染症対策のマスク、手袋などをトレーラー4台分送ってくれました。マスクは、ほぼ定価で販売しました。

私たちのクラブは、今回の3回のオークションで2万米ドルの収益を挙げ、全額をマスキーゴン YMCA 理事長とそのキャンプに用途の制約を付けずに贈りました。いつもだと必要な、屋内セールにかかる光熱水代が不要だったため、屋内イベントだったしたら、2.5万米ドルに相当する収益でした。次回のオークションは9月です。パンデミックも私たちの勢いを止めることはできません。

クラブ会長 ジョン・マクファッデン



マスキーゴン・ヌーン・ワイズメンズクラブのホワイトエレファントセールのトラックの前で。ハリー・アーサー前会長(左)、共同会長のゲリー・ネフラ(中央)、ジョン・マクファッデン(右)

ヨーロッパ：「ゴミのための週」始まる



YMI の新しいプロジェクトである「ゴミのための週」(Week4Waste)が始まりました。これは、全世界をよりきれいにしようというもので、プロジェクトの委員長のデンマークのウルリク・ラウリドセン(写真中央)のリードによってバイレとコリングでデンマークのクラブ会員(左)がゴミを拾うことでスタートしました。

右の写真は、ドゥスリククラブ(ロシア・ウファ)が、地元から離れた広範囲の地域の清掃に従事し、最後は、薬草ハーブの葉を家族や友人のために摘んで作業を終わりました。(バシキリアは、素晴らしいハーブで有名です。)

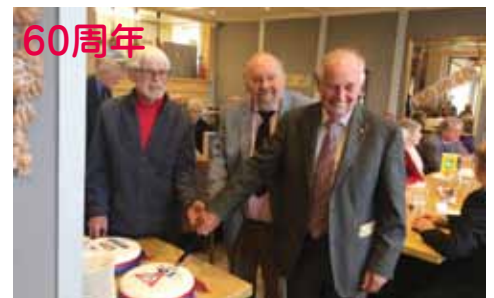
最近催された周年行事



マクラムサウスクラブ(インド中西部):チャーター会長ジョージ・C・P・タラカンが表彰されました。今年2月、次期国際会長ジェイコブ・クリステンセン、国際書記長ジョース・ヴァルギース他のリーダーの臨席のもとで行われた40周年式典の席です。

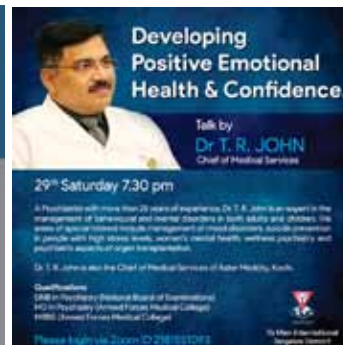
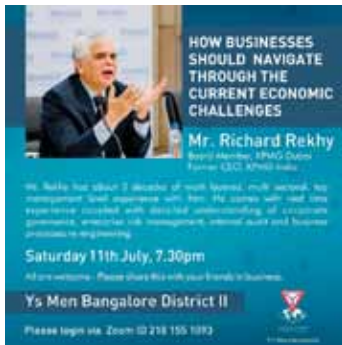


ヴィルドゥナガルクラブ(インド南区):地域会長K・C・サムエルが、元国際会長アイザック・バラシンカル他の人々の臨席のもと、2019年5月に行われた同クラブの50周年記念の式典の折、伝統のランプに点灯しているところです。



キングズウッドクラブ(ヨーロッパ地域、英国・ブリストル):チャーターメンバーの内、ジョン・グレイ、ボブ・グレイ、ジェフ・アンの3名が、同クラブ60周年記念行事で食事を前に誕生日ケーキにナイフを入れました。

インド:クラブ強化のためのオンラインセミナー



バンガロールII部では、このシャットダウン期間を利用して、テクノロジーを活用して、新年度の最初の2ヶ月間に、クラブ強化プログラムの一環として一連のオンラインセミナーを開催致しました。最初のセミナーは、経済界を対象にしたもので、KPMGドバイの役員であるリチャード・レキーが、現在の経済環境を生き抜くために企業がどの様に戦略を転換しなければならないかについて講演しました。2回目は、新型コロナウイルスからの生存者であり、ロンドンを拠点とする著名な医師であるトーマス・ジョン・コトウカパリーが講師を務めました。3回目は、人々の幸福と人権を扱うことに豊富な経験を持つクリスティ・エイブラハムによるワイズメネットのためのセミナーでした。最後は、ケララ州コーチを拠点とする著名な精神科医 T・R・ジョン博士のパンデミック期間中の精神衛生についてのもの

でした。

バンガロール・ワイズメンズクラブ（バンガロールII部）は、8月のYMI強調月間である「リーダーシップトレーニングと組織開発（LTOD）」と「国際兄弟／姉妹クラブ（IBC）」に関するオンラインセミナーを開催し、部の指導者を支援しました。国際事業主任のエドワード・オングと利根川恵子は、これらの重点分野について聴衆を啓発しました。これらのオンラインセミナーには、クラブ、部、地域、国際レベルから多くのクラブ会員が参加しました。



タイ:自立と安全の推進

タイとミャンマー国境の西側にあるドンヤンとボルヒンのキャンプに取り残された9,000人以上のカレン族の難民は、キャンプ内の過密な生活状況のために新型コロナウイルスパンデミックに対して非常に脆弱です。感染すると、地域社会は、多数の人命の損失を経験するだけでなく、隣接する村や地域社会に新型コロナウイルスの強力な感染拡大源となります。バンコクワイズメンズクラブは、チェンマイ、チェンライ、チェンマイ・ラナの各クラブと連携し、友人や関係者に呼びかけ、カレン族難民の地域社会からの要請に応え、新型コロナウイルスの感染拡大を



マスク製作に従事している難民59家族のうちの数人

防ぐために、難民ひとりひとりに衛生的なマスクを提供しました。また、YMIからは、現地で調達した資金と同額の1,500スイスフランの提供を受

け、予防的で持続可能な活動を実施出来る様にしました。7つのキャンプで1,000人のボランティアを含み、ドンヤンキャンプでは2,200人、タムヒンキャンプでは6,350人の



安全を確保するために、もらったマスクを着けているドンヤンキャンプのカレン族難民

難民に9,550枚のフェイスマスクを配布することが出来ました。また、59の難民家族が参加し、支給された材料でマスクを作る収入源となる活動も開始されました。生産工賃は、59人の女性世帯の扶養家族360人の役に立ちました。総額106,684タイバーツ（約3,102スイスフラン）の募金を集める事が出来ましたが、支出は96,889バーツ（約2,817スイスフラン）にとどまり、残金は、カレン族難民委員会に寄付され、貧困にあえぐ難民への支援に役立てられました。

直前理事：ターウィーチャイ・タムクナノン SEA 区

カナダ:約束を守る



セントジョン Y サービスクラブのメンバーは、10 年間で 50 万カナダドルという約束を達成すべく、YMCA キャピタルキャンペーンへの毎年の献金として 50,000 カナダドルの小切手をセントジョン地域の YMCA に贈呈しました。

ガーナのワイズメンが貧困層への支援を拡大



ガーナのアクラワイズメンズクラブの素晴らしい仕事。このクラブは、7 月にサム・クレッピー部長と彼のチームの指導の下、地域社会における新型コロナウイルスの影響を軽減するために、貧しい人々に物資を配布しました。

世界自然保護の日 2020



世界自然保護の日は、毎年 7 月 28 日に世界中で祝われています。この日は、健全な環境が健全で持続可能な社会の鍵を握っていることを思い出させてくれます。この世界自然保護の日には、インドのいくつかのクラブが地球を保護し、自然資源を保護するための努力をしています。上の写真は、西インド区でのクラブの取り組みです。

命の川を信じよう

インド:クーノアクラブが加速



「ホームレスのための家」プロジェクトの下、クーノアクラブは、体の不自由なベラッティマタム（クーノア）のニールカンダンさんとその家族に新しい家を引き渡しました（上の写真）。このシェルターは、不特定の仕事を生計を立てている家族にとって大きな恩恵となっています。



ワイズのイメージ構築の行動 - クーノアの町の中心部にある「交通島」。この地点からわずか 20km 先にある丘の女王、ウーティには毎年 100 万人以上の観光客が訪れると言われています。

ニュースやご意見をお待ちしています。

読者の皆さまには、それぞれのクラブ / 部 / 区で行われた活動について、1 枚以上の高解像度の写真と適切なキャプションを添えて送って下さい。文章は 150 語以内(英語)とします。読者の皆さまには、世界的な運動に関わる事項についてのご意見やメモも送って頂く様にお願いします。

文章、写真の投稿先:www.ysmen.org/ymiworlde

次号への投稿締切日:2020 年 11 月 30 日

1922-1939 年の国際会長

1. ポール・ウィリアム・アレキサンダー判事(1888-1967)
1922.11.17 ~ 1924.10.18 の国際会長
ホームクラブ:トレド(米国・オハイオ州)



私たちの運動の創設者で初代国際会長。法律家であり、後に家庭裁判所判事。国際憲法、入会式式辞、ワイズソング歌詞ほかさまざまな文書を執筆。

4. チェスター・C・シュナイダー医師(1894-1972)
1926.9.4 ~ 1927.9.1 の国際会長
ホームクラブ:ミルウォーキー(米国・ウイスコンシン州)



チェスター・C・シュナイダーは、ミルウォーキーの整形外科医。1972年に亡くなるまで熱心なワイズメンバーであった。

2. グレン・B・ビアーズ(1897-1959)
1924.10.18 ~ 1925.10.17 の国際会長
ホームクラブ:ウォータールー(米国・アイオワ州)
第2代国際会長に選ばれたとき、彼は、弱冠 27 歳であった。

ポール・ウィリアム・アレキサンダーと同じく法律家。法律学校で学んでいるとき YMCA の寄宿舎に住んで以降、YMCA の強力な支援者であった。歴史上最も若い国際会長。



5. エドガー・J・マッコイ(1891-1962)
1927.9.1 ~ 1929.8.22 の国際会長
ホームクラブ:カントン(米国・オハイオ州)

第5代国際会長は、製菓会社を経営していたので、自身の職業欄に「キャンディ」と記載していた。2期、国際会長を務め、記録によると1927年に最初に選ばれ、1928年に再選された。



3. ハロルド・W・ベネット(1896-1981)
1925.10.17 ~ 1926.9.4 の国際会長
ホームクラブ:カムデン(米国・ニュージャージー州)



第3代の国際会長は、ふたりの前任者と同じく法律家であった。自身の法律事務所を持つだけでなく、ホームタウンのカムデンの市長を初め、様々な公職に就いた。

6. ニュートン・W・トンプソン(1892-1972)
1929.8.22 ~ 1931.8.7 の国際会長
ホームクラブ:ベルビル(カナダ・オンタリオ州)



米国以外から選ばれた初の国際会長で、1929-1931年度の2期、国際会長を務めた。彼は、カナダ国有鉄道に勤務した。彼が選出された年は、カナダのトロントにおいて、米国外で初めて国際大会が開催された年でもあった。

1922-1939 年の国際会長

7. リチャード・H・マクリーリー (1903-1983)

1931.8.7 ~ 1932.8.25 の国際会長

ホームクラブ: ワシントン (米国・アイオワ州)



カレンダー (プレイボーイ誌のカレンダーも) を印刷する会社を経営。地域の劇場を建設し、また、地元の YMCA の資金作りに貢献した。

10. ダグラス・L・スミス (1894-1970)

1936.8.24 ~ 1937.8.23 の国際会長

ホームクラブ: ウィルクス・バリ (米国・ペンシルバニア州)



彼は、1936 ~ 1937 年度の国際会長で、エンジニアであった。第 1 次世界大戦において野戦砲担当の伍長であった。

8. R・エドガー・フィッシャー (1888-1961)

1932.8.25 ~ 1934.8.20 の国際会長

ホームクラブ: ウェークフィールド (米国・マサチューセッツ州)

第 8 代国際会長は、彼が選ばれたときは歴史の教師で、後に幾つかの学校で校長を務めた。彼のホームクラブは、米国・マサチューセッツ州のウェークフィールドで、今日も存在している。エドガー (彼は、こう呼ばれることを好んでいた) は、大恐慌の時代に 2 期、国際会長を務めた。



11. ルイス・A・ワレン

1937.8.23 ~ 1938.8.18 の国際会長

ホームクラブ: ワシントン (米国・アイオワ州)

彼は、1937 ~ 1938 年度の国際会長であった。新聞発行人であり、アイオワ州・ワシントンに住んでいたが、その町には、デイヴ・エルダー (ワイズメンズワールドの編集長を長く務めた)、リチャード・マクリーリー (第 7 代国際会長) も住んでいた。



9. アール・W・ライマン (1906-1957)

1934.8.20 ~ 1936.8.24 の国際会長

ホームクラブ: モントリオール (カナダ・ケベック州)



彼は、カナダ人として 2 人目の国際会長で、ベル電話会社の広報担当マネージャーであった。

12. ジェームズ・A・ベッツ・ジュニア

1938.8.18 ~ 1939.8.25 の国際会長

ホームクラブ: リッチモンド (米国・バージニア州)



彼は、バージニア州リッチモンドの法律家であったが、後に YMCA のために働くことに専念した。



Y'S MEN INTERNATIONAL

To acknowledge the duty that accompanies every right

ワイズメンズクラブ国際協会

強い義務感を持つ 義務はすべての権利に伴う

**An International Service
Organisation focused on community
development and partnering the
YMCA mission since 1922.
Providing funding for YMCA
projects, staff training and more...**

1922年の創立以来、地域社会の発展とYMCAの使命のパートナーとしての役割に
焦点を当てて活動している国際的奉仕組織です。

70
Countries

70か国

1500+
Clubs

1,500以上のクラブ

26000+
Club
Members

26,000名以上の会員

**AND
LOOKING
TO
EXTEND**

そして更なる拡大を
目指しています

詳しくは、以下から

For more details, visit:

www.ysmen.org